



シジュウカラ 第114号

ミサゴ オス 成鳥



成鳥は翼全体が黒褐色です。
換羽中のため、色の褪せた古い羽と色の濃い新しい羽が混在しています。

ミサゴ 性不明 幼鳥



幼鳥は羽縁に淡いバフ色の斑があり、各羽の先端がとがっています。

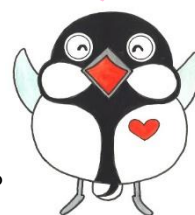
もくじ

- 1 ページ ・ ミサゴの成鳥と幼鳥
- 2 ページ ・ アラナミキンクロはどこから来たのか
- 3 ページ ・ イベント案内（令和8年11月～令和9年3月）
・ イベント報告（令和8年4月～7月）
- 4 ページ ・ 傷病鳥獣の収容状況（令和8年4月～7月）
・ 愛鳥センター利用案内

ホームページもチェックしてね



愛鳥センターHP
QRコード



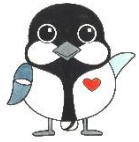
表紙の写真 ミサゴの成鳥と幼鳥

ミサゴの収容が2件ありました。成鳥と幼鳥でしたので、姿の違いを比較しました。

・ 各個体の転帰について

1 羽目：5月19日に新潟市東区の空港付近で保護されたオスの成鳥です。左の中手骨（人間でいうと掌の骨）の骨折がありました。衝突による負傷と思われます。しばらくの間救護棟で療養し、骨折部も治癒し、飼育舎に移してしばらくリハビリを行いました。よく飛べるようになったため、8月8日に放鳥しました。

2 羽目：1羽目を放鳥した矢先、8月8日に新たなミサゴの収容がありました。この個体は村上市で保護された性不明の幼鳥です。救護原因は衝突による脳震盪と考えられましたが、とても痩せていました。もしかしたら、巣立ち後にうまく生活できていなかったのかもしれません。この個体は残念ながら8月10日に死亡しました。



アラナミキンクロはどこから来たのか

少し前の収容個体の話です。2022 年に、新潟県初記録となったアラナミキンクロの収容がありました（シジュウカラ 104 号 4 ページに掲載）。この個体はメスの幼鳥で、2022 年 12 月 25 日に新潟市中央区翁町地内で保護され、12 月 28 日に死亡しました。収容時は、かなり痩せて衰弱している状態でした。

アラナミキンクロのオスは見間違えようがないほど独特の風貌をしていますが、メスは地味で、顔の一部を除いて全体的に黒褐色です。

アラナミキンクロは本来、北アメリカの沿岸やアリューシャン列島、カムチャツカ半島付近で越冬しています。日本では稀に記録される冬鳥で、北海道や本州太平洋側での記録が多く、日本海側での記録はわずかです。この個体がどこから来たのか、なぜ滅多に来ない日本海側に来たのか、ずっと気になっていました。

最近、^{りゅうせきせんかいせき}流跡線解析の手法を知る機会があり、この個体がどこから来たのかをシミュレーションすることができました。流跡線解析とは、気象データを用いて、大気の塊の移動軌跡を計算する方法です。

解析の結果、2022 年 12 月 21 日に北アメリカ付近にあった大気が 12 月 24 日に保護地付近まで到達する軌跡が示されました。天気図と合わせてみたところ、最初にアリューシャン低気圧が、後続して日本付近に低気圧がありました。アラナミキンクロはこの低気圧の北側の気流に乗って日本海へやって来たと考えられました。

元々弱っていたために気流に流されてしまったのか、それとも、気流に流されて長距離を飛ぶこととなり消耗してしまったのか、どちらなのかはわかりませんが、保護時にかなり痩せていたことから、風に抗える体力がなかったために陸地に流れ、落ちてしまったことが推測されます。

北アメリカ沿岸から保護地までの距離はおよそ 4500 km 離れています。カモの飛行速度は 70

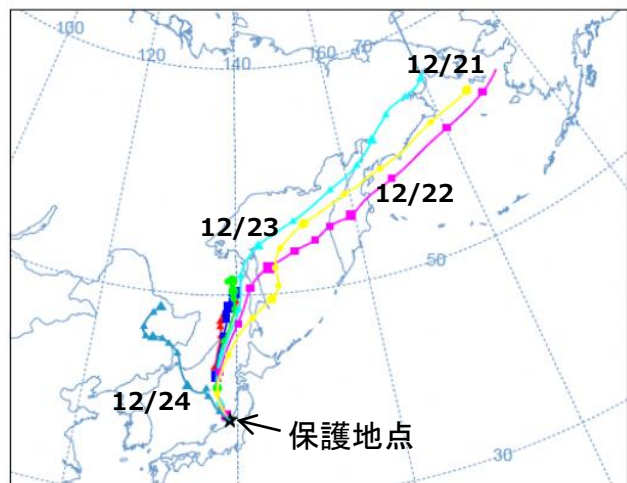
km/h 程度とされていますが、追い風では 100 km/h を超える速度が出るそうです。ノンストップで飛んだのか、途中で休んだのかはわかりませんが、気流に乗って 3 日間で 4500 km の距離を飛ぶことは不可能ではありません。

今回の解析で、この個体が本来の越冬地である北アメリカ付近から来たであろうこと、数日で一気に日本海へ来たであろうことが推測でき、大変興味深い結果となりました。

今回の解析は気象予報士の太田佳似氏にご協力いただきました。



アラナミキンクロ メス 幼鳥



HYSPLIT を用いた流跡線解析の結果

日付は各日のおおよその推測位置を示しています



令和8年11月～令和9年3月イベント案内

参加費はすべて無料です。イベントの詳細はホームページでご確認ください。

愛鳥講演会 申し込み受付開始 10/1～

今年度は「新潟平野に飛来するガン・ハクチョウ類」をテーマに開催します。

日時：令和8年11月23日（月・祝）

13：30～15：50

場所：新潟県立生涯学習推進センター1階ホール

新潟市中央区女池南3-1-2

講演1：「新潟平野のガン・ハクチョウ類の動きや推移」

講師：新潟県水鳥湖沼ネットワーク 小林 博隆 氏

講演2：「オオヒシクイとコハクチョウは何を食べているのか？食性から見える越後平野での暮らし」

講師：元新潟大学大学院自然科学研究科 向井 喜果 氏

定員：95名

申込み締切：11月19日（木）または定員に達し次第



オオヒシクイ

探鳥会・観察会 申し込み受付開始 11/1～

○弁天湯探鳥会

日時：令和8年12月6日（日）8：00～10：00

場所：弁天湯（聖籠町） 定員：20名

集合：弁天湯風致公園駐車場



オオハクチョウ

○足跡ウォッチング

日時：令和9年1月17日（日）9：00～11：00

場所：愛鳥センター 定員：20名

集合：愛鳥センターレクチャールーム

講師：高橋 泉 氏（自然観察指導員の会）

○愛鳥センターバードウォッチング③

日時：令和9年3月7日（日）9：00～10：30

場所：愛鳥センター 定員：20名

集合：愛鳥センター1階ロビー



申込み方法：住所・氏名・電話番号・年齢を明記して、電話、はがき、FAX、E-mailにてお申し込みください。

愛鳥講演会はホームページ電子申請からお申し込みいただけます。

野鳥写真展作品募集 応募要領はHPまたはチラシをご確認ください。



応募資格：新潟県内在住者 応募点数：2L版で1人5枚まで 応募締切：令和9年1月5日（火）必着

特別展

2階ロビーにて開催します。開館時間中自由に見学できます。

★令和9年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール新潟県大会入賞作品展

9月19日（土）～10月25日（日）

★令和8年度冬季特別展「新潟県の絶滅危惧種（水鳥編）」

令和8年10月31日（土）～令和9年2月11日（木・祝）



令和8年4月～7月イベント報告

イベント報告の詳細はホームページに掲載しています。

◆昆虫標本作製教室

日時：4月12日（日）10：00～11：30

場所：愛鳥センターレクチャールーム 参加者：13名

講師：鈴木誠治 氏（昆虫はかせネットワーク）

◆初心者バードウォッチング

日時：①4月19日（日）②4月29日（水・祝）

9：00～10：30

場所：愛鳥センター周辺 天気：①晴 ②曇のち雨

参加者：①18名 ②14名 確認鳥種：①19種 ②20種

◆めざせ調査員！鳥の鳴き声勉強会（春）

日時：4月26日（日）9：00～11：00

場所：愛鳥センター周辺 天気：晴

参加者：3名 確認鳥種：18種

◆羽のしおり作り教室

日時：5月3日（日・祝）・4日（月・祝）・5日（火・祝）

13：30～15：00

場所：レクチャールーム 参加者：62名（3日間計）



◆愛鳥センターバードウォッチング①

日時：5月9日（土）9：00～10：30

場所：愛鳥センター周辺 天気：晴

参加者：12名 確認鳥種：19種

◆鳥の標本作製講習会

日時：5月30日（土）9：45～16：45

場所：県立自然科学館 科学室 参加者：6名

◆新潟県野鳥保護の集い

日時：6月6日（土）14：00～15：30 参加者：41名

場所：レクチャールーム

演題：「佐渡の鳥、よもやま話」

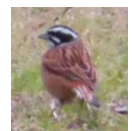
講師：新潟県野鳥愛護会 近藤 健一郎 氏

◆昆虫観察会

日時：7月19日（日）9：00～11：00

場所：愛鳥センター周辺 天気：曇 参加者：22名

講師：遠藤正浩 氏（胎内昆虫の家）



ホオジロ



チョウトンボ



令和8年4月～7月の傷病鳥獣収容結果

収容 NO.	種類	3月末 収容数	収容数	放鳥獣	返還 譲渡	死亡	7月末 収容数	収容 NO.	種類	3月末 収容数	収容数	放鳥獣	返還 譲渡	死亡	7月末 収容数
(鳥類)								18	ハヤブサ	1	3			2	2
1	コハクチョウ	5	2		2		5	19	ハシボンガラス	4	1	1			4
2	カルガモ		1	1			0	20	ヤマガラ		1			1	0
	ヤマドリ	1					1	21	シジュウカラ		1			1	0
3	キジ		1	1			0	22	ヒヨドリ		4	2		1	1
4	キジバト		1	1			0	23	ツバメ		10	3		6	1
5	アオバト	1	1	1			1	24	ムクドリ		5	3		2	0
6	オオバン		1	1			0	25	トラツグミ		2			2	0
7	ムナグロ		1			1	0	26	クロツグミ		1	1			0
8	コチドリ		1	1			0	27	スズメ		3	2		1	0
9	ウミネコ	5	2	1		2	4	28	キセキレイ		1			1	0
	ゴイサギ	1					1	29	ハクセキレイ		1			1	0
10	ミサゴ		1				1	30	カワラヒワ		4	2		2	0
	クマタカ	1					1	31	アオジ		1			1	0
11	トビ	10	1				11	32	ドバト		2	2			0
	サシバ	2					2	小計		41	63	27	3	27	47
12	ノスリ	2	1				3	(獣類)							
13	コノハズク		1	1			0	1	ノウサギ		1			1	0
14	オオコノハズク		1	1			0	2	ムササビ		1			1	0
15	フクロウ	2	1			1	2	小計		0	2	0	0	2	0
16	アカショウビン	1	2		1	2	0	合計		41	65	27	3	29	47
17	チョウゲンボウ	5	4	2			7								

令和8年4月1日～7月31日までの収容数は、鳥類 32 種 63 羽、獣類 2 種 2 頭で、昨年度の同時期（鳥類 68 羽、獣類 1 頭）と比べ鳥類は減少し、獣類は増加した。



利用者数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	計	累計
来館者数	534	699	390	268	1,891	659,253
相談件数	39	103	62	90	294	—

館内設置のトキ募金箱の報告

令和8年4月～令和8年7月 10,447 円 累計 363,284 円
皆様の善意に深く感謝いたします。今後とも御協力をお願いします。



新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

開館時間：午前9時～午後4時

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）

〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池

Tel：0254-41-4500 Fax：0254-41-4501

HP：https://www.pref.niigata.lg.jp/site/aicho/

E-mail：aicho-center@pref.niigata.lg.jp

